

新地域ビジョンの検討状況

- 掲載している基本理念・方向性等は、現時点の検討状況であり今後ブラッシュアップを行うものである
- 文言、見出し等は、紙面の都合により要約・編集しておりイメージを示したものである

新地域ビジョンの策定

新地域ビジョン 検討委員会

- 各地域 2～10回
地域ビジョン委員長、地域のキーパーソン、有識者、市町職員など140人が参画
 - ・ 新地域ビジョンの策定主体
 - ・ 地域の資源・課題の調査、ビジョン案の起草、公開討議の場の企画運営等

個別ヒアリング

- 各地域 随時実施
 - ・ キーパーソンや団体・企業等へのヒアリングにより、キーワード抽出や、骨子案のブラッシュアップを実施

地域デザイン会議

- 各地域 3～8回
県民や県にゆかりの方々約600人が参画
 - ・ 県民有志が討議を重ねて将来の地域デザインを描くワークショップ
 - ・ 県民が感じている課題や望む生き方・将来像を抽出し検討委員の議論に繋げる

ビジョンを語る会

- 各地域 4～12回
地域の様々な団体や地元有志グループなど約2,100人が参画
 - ・ 残したい、受け継いでいきたい地域の魅力や、変えたいと思う課題、従来の発想にないワクワクする未来など、県民それぞれの思いを車座形式で語り合う

地域未来フォーラム

- 各地域 1～2回 **広く県民を集めたフォーラムを地域夢会議として開催**
コロナ拡大のなか、地域ごとに実施方法を工夫しながら開催
 - ・ 全県版の将来構想試案や新地域ビジョンの検討状況を発信し、参画と協働のビジョンづくりに向けた機運醸成と意見交換を行う

県下9地域で 新地域ビジョン

今後の
予定

骨子案

年内
本体案

パブリックコメント

来年3月策定予定

新全県ビジョン
とは**両輪**

基本理念：みんなの希望にフィットするまち・神戸

ビジョンの方向性

※ 構成要素／プロセス

○つながるまち／つながる・つなげる

- ・地域での資源循環・社会経済活動が豊かな自然環境を次代につなげる
- ・自然と暮らしやすいサイズの都市空間がつながる ・農と都市生活がつながる「農都」
- ・神戸の良さを発見発信 観光・ビジネス・移住など訪れたい・働きたい人が増加
- ・あらゆる世代がそれぞれの学びや地域資源の活用を通じてつながる

○うまれるまち／うまれる・うみだす

- ・アイデアを実験・実証 多様なプラットフォームから新事業が生まれる
- ・学び・子育て・仕事など各ステージで全ての人々が望むライフスタイルを生む
- ・ジェンダー・ハンディ・ルーツ・文化など全ての人を包摂する新しい共生のかたち
- ・地域を自分ごとに 住んでいる神戸へのシビックプライドが生まれる

○そだてるまち／そだつ・そだてる

- ・地域の関わり・学びから次代の担い手を育てる ・子どもが安心できる居場所
- ・まちづくり、祭り、防災・防犯などで、つながり・支え合いの環境を育てる
- ・公共の担い手・組織が育つ ・様々な人や組織をコーディネートできる人が増える

<地域の特性・キーワード等>

歴史文化：古くからの交易拠点 神戸港・外国人居留地が窓口 異国情緒あふれるハイカラ文化が発展 最先端の芸術・ファッション・カルチャーを発信 神戸ブランド：神戸ビーフ・灘の酒・スイーツ・有馬温泉 産業：造船や製鉄などが日本の経済発展を牽引 神戸医療産業都市にはスパコン富岳や高度研究機関・企業が集積 スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市にも認定 自然農業：身近に山や海などの自然を感じる 六甲山はワーケーションの適地に 農業出荷額は近畿3位の「農都」 防災・国際貢献：JICA、WHOなど国際機関が集積 阪神淡路大震災以来の知見を発信

<主な県民意見>

(都市と自然のつながりかた)

- ・実際の距離よりも、都市部と田園部の距離が開いている気がする。物理的な距離を意識しないような、境目を感じない関係にしたい。心理的な距離は「知らない、分からない」ことが原因の1つだと思うので、まずは知ってもらうことが必要。

(多様な生き方を実現できる)

- ・自分のライフスタイルで何が必要か考えたとき、神戸には様々なニーズに対する選択肢が多い。神戸ならではの環境を利用した、多様な生活様式も提案できる。

(新たな多文化共生)

- ・他国のルーツを持つ人たちが神戸の住民として定着し、神戸がふるさとになる環境に変化している。外国人の子どもが成長して、教育を受けて、地域に住んでいくことへのビジョンを持つことが必要。

(みんなが誰かの役にたつまち)

- ・サポートする側、される側を固定化しない。サポートされる側の人でもサポートできる側になれるという循環を作っていくことが大事。

(生きる力をつける教育ができるまち)

- ・受験教育ではなく、生きる力をつける教育を地域で行うことができる。質の高い教育、学力をあげる事はどのエリアでもできるが、山や海など豊かな自然をもつ地域だからこそその教育は神戸の魅力的なコンテンツである。

基本理念：コ・クリエーションなまちの実現

～住んでよし、働いてよし、集ってよし～

ビジョンの方向性

○自分らしいスタイルが実現できるまち

- ・自然に近い都市近郊で起業やまちづくり
- ・職住近接の地域で挑戦
- ・多様な暮らしを実現
- ・発展する技術を環境へ活用

○自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

- ・地域に愛着を持った人を育む
- ・歴史、芸術文化をいかした地域振興
- ・引継がれてきた自然や歴史を受け継ぐ

○みんながつながる、やさしいまち

- ・自分にあったつながりに参加できるまち
- ・一体的つながりによる防災減災
- ・多様な人が参画する地域コミュニティの実現

○にぎわいのあるまち

- ・地域資源の再発見や磨き直しや活用
- ・様々な人との交流促進
- ・一層にぎわいのあるまちを実現

<地域の特性・キーワード等>

人：20代若者の転出超過、ファミリー層の転入多い、健康寿命が長く阪神北県内1位、アクティブシニアが活躍、多様な人を受け入れてきた許容性
産業文化：臨海部を中心とした工業地域、伊丹・灘五郷の銘醸地、高速道路網、阪神間モダニズム、芸術・スポーツ発展、高等教育機関集積、都市近郊農業
自然環境：尼崎21世紀の森構想、北摂里山博物館構想 防災減災：阪神淡路大震災の経験、臨海部の高潮・南海トラフ懸念

<主な県民意見>

(地域と趣味としごとが重なる暮らし)

- ・阪神間の複数の市が毎年、「住みたいまち」ランキングに名を連ねている。テレワーク環境が整うなか移住に対する理解が進み、地域との繋がりも増えてほしい。

(いつからでも誰でもスタートアップ)

- ・阪神地域は兵庫県下でも大学等の高等教育機関が多い地域で、各大学では社会人を対象とする様々な公開講座が実施されている。
- ・習得した技術や知識で起業、転職などの幅広いライフデザインが描ける。

(未来まで続く花と緑と里山)

- ・尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境を創出し、環境共生型の憩いの場を目指す。自然環境や里山の保全に関わる人を増やしていきたい。
- ・農業者が連携して事業を実施し、消費者や観光客の視点を意識しながら、都市・都市近郊農業の魅力アップを図る。

(再発見で魅了する「阪神間モダニズム」)

- ・文化、芸術、経済などは新しい考え方や文化を柔軟に取り入れる寛容な風土を育み、独創的な建築物などからその様子をうかがうことができる。
- ・阪神間モダニズムの魅力を認識することにより、シビックプライドが醸成されるとともに、デジタル技術を活用して、継承することが必要。

基本理念：水辺・ものづくりのまちでつながりワクワクする未来

ビジョンの方向性

○軽やかに動き、いきいきと暮らす

- ・自動運転、デマンド交通など快適な移動確保で働き方や暮らし方、住まい方が広がる
- ・犯罪や災害から暮らしを守る ・福祉、医療やスポーツから健康長寿を享受

○ひとを育み、生きがいを実感できる

- ・子どもを産み育てやすい環境を地域ぐるみで ・多様な人々が混じり合い支え合う環境
- ・自律して挑戦する若者を育む教育 ・生き方、働き方、学び方の選択肢が広がる

○伝統と文化が息づき、交流が広がる

- ・伝統文化、豊かな歴史がつながりを育む ・地域の魅力が高まり、新しい担い手が育つ ・暮らしやすい環境や多彩な魅力が移住者、二地域居住者、観光客を国内外から引き寄せる

○人・もの・情報がつながり、元気でにぎわう

- ・スマート社会の徹底により、「ものづくり」の資源と最先端テクノロジーが融合、スタートアップやコミュニティビジネス、シェアリングサービスが生まれる

○自然を生かし、資源が循環する

- ・ため池、河川、海浜などの水辺と里山が暮らしと共存
- ・農水産物の地産地消や、再生可能エネルギー、CO2フリー水素の域内自給

<地域の特性・キーワード等>

産業：臨海部の工業地帯が経済発展を牽引 加古川和牛の生産やノリの養殖等農水産業が盛ん 防災：南海トラフ地震、加古川・法華山谷川水系の水害懸念

歴史文化：古来 海陸交通の重要な拠点 風光明媚な瀬戸内海に望み 万葉集や源氏物語の舞台にも 江戸時代は北前船の寄港地に 日本遺産にも認定

自然環境：中央部には県下最大の河川「加古川」 流域に播州平野 いなみ野台地に分布する加古大池等の日本一のため池群

<主な県民意見>

(スポーツを通していきいきと過ごす)

- ・一人ひとりが健康でいきいきと暮らすために、東播磨のスポーツ資源とツーリズムを融合させたスポーツツーリズムを促進させたい。一級河川「加古川」の河川空間を活用したスポーツの普及やスポーツイベントの開催の実現など。

(チャレンジする若者を育む教育)

- ・学校教育と社会教育において特色ある体験型・課題解決型教育や多様な学びを導入することにより、ふるさとを大切にする意識（シビックプライド）などを醸成、若者が生きる力やチャレンジする力を習得できるようになる。

(地域に根ざした観光資源の活用)

- ・東播磨は自然豊かで歴史的資源も多く、ご当地のB級グルメも地域内外に浸透するなど魅力は十分。観光プロモーションなどの発信力を高め、企業群への見学ツアー工場観光などもつくりや地域に根ざした資源の活用が観光の活性化につながる。

(デジタル技術の活用)

- ・デジタル技術を有効活用し、デジタルとフィジカルを効果的に組み合わせ使いこなすことにより豊かな暮らしが実感できる。

(自然環境や景観への配慮)

- ・多様で豊かな水辺空間を認識し、地域の財産としての意識を向上させるための工夫を凝らしたイベントやキャンペーン開催の実現など。

基本理念：田園の恵みが生み出すここちよい未来の暮らし ～ひょうごのハートランド・北播磨～

ビジョンの方向性

- **き** らめいて！自然の恵みが楽しめる豊かな暮らし
・播州平野を貫流する加古川や疏水による田園風景や、山や川が育んできた自然の恵みを受け継ぎながら、自然と生命とが共生する環境を保全
- **た** のしんで！世代と文化を越え、誰もが笑顔に
・年齢、人種、国籍を越えて、多様な人々が交流し、共に助け合い、支え合う、笑顔あふれるふるさとに
- **は** つらつと！「べっちょない」精神でつながる
・「べっちょない（大丈夫！）」で支え合う絆をつむぎ、自分らしい生き方・働き方・暮らし方・学び方にチャレンジできる地域に
- **リ**ードする！産業の未来を切り拓く
・北播磨の宝である地場産業を元気にし、最先端技術を使った新しい産業や新しい農業の萌芽の場に
- **ま** た来たい！「オモシロイ」で集う
・のどかな田園風景の中でのサイクリング、歴史文化資産の探訪、ドローンでの空中散歩等が楽しめる北播磨ならではの“オモシロイ”で人を惹きつける地域に

<地域の特性・キーワード等>

交通：大阪・神戸の都市部から車で約1時間 東西南北高速道路網の結節点 産業：製造業が集積。播州織、利器工匠具・刃物、そろばん、釣針など地場産業が発展 人材：在留外国人口は直近5年で倍増 自然・農業：県下最大河川「加古川」を中心に播州平野が広がる県下有数の水田地帯 酒米 山田錦、黒田庄和牛、播州百日どりなどの特産品が豊富 高付加価値のプラチナぶどう、新品種の黒枝豆「ひかり姫」など新たなブランドも 暮らし・観光：美しくのどかな田園風景 サイクルスポーツの拠点としてBMX（バイクトラス）レース等の自転車競技場整備も予定

<主な県民意見>

（自然を生かす）

・豊かな自然のなかでワーケーションとしての活用が広がればいい。初夏を緑の絨毯で彩る水田は、食糧と防災のために必要。さらに、子育てや教育、雇用環境等の整備をすれば、北播磨全体の活性化につながっていく。

（変化に対応できる子どもを育てる教育）

・学歴では分からない力の涵養を地域や学校が親と一緒にあって取り組んでほしい。変化に強い若者を育て、そういった若者が集まるような地域にしていきたい。

（若者が主役の社会にする）

・若者が主役になり、それを応援する社会に。古い価値観を時代に合わせてアップデートし若者や女性がリードする。挑戦して失敗できる地域であれば誇れる地域になる。

（北播磨を高齢者特区に）

・北播磨はちょうどいい田舎。リタイヤ組や都市部の高齢者を受け入れることで、新しい産業や事業を興し、雇用創出や優秀な外国人を呼び込むことができると思う。

（農業の未来）

・30年後も農業で北播磨の未来を築くために、農産物のブランド化と品質向上が不可欠。他の地域から入ってきた若者が生き生きと農業経営ができるようにしたい。

基本理念：多様な地域に、^{ひと}個性が輝く中播磨

ビジョンの方向性

○多様な人が行き交う「交流」中播磨

- ・姫路城に続け！地域資源を磨く
- ・みんな おかえり！温かく迎え入れる
- ・積極アピール！魅力や情報を発信
- ・どこでもアクセス！持続可能な交通

○新たな力が生まれ続ける「活力」中播磨

- ・伝統×革新！ものづくり力に磨き
- ・広がる担い手！多様な農林水産業
- ・誰もがキラリ☆自分らしい働き方
- ・個性爆発！学びとチャレンジを応援

○ステキなご近所さんで支え合う「つながり」中播磨

- ・祭りで団結！ご近所力を高める
- ・あふれる笑顔！子供の成長を見守る
- ・いきいき長生き！地域で健康に暮らす
- ・違って当たり前！多様性を認め合う

○次代に受け継ぐ「ふるさと」中播磨

- ・Reデザイン！快適なまちをつくる
- ・次の世代へ！豊かな自然を守り育む
- ・備えあれば憂いなし！安全安心な暮らしを守る
- ・ヨイヤサ！伝統文化を次代に受継ぐ

<地域の特性・キーワード等>

産業：古くより政治・商業の中心地として発展 明治以降は臨海部の工業地帯が日本の経済発展を牽引 玄関口姫路の再整備により新しい地域づくりが進展
ツーリズム：世界遺産 姫路城、書寫山圓教寺、砥峰高原、日本遺産 銀の馬車道・鉾石の道 特産品：皮革、清酒・地酒、ゆず製品、ゴルフアイアンクラブ、もち麦麺
人・地域：姫路市への周辺地域からの転入の一方 他都市への若者の流出 播磨圏域連携中枢都市圏など地域連携 灘のけんかまつりなど伝統文化・地域への愛着

<主な県民意見>

(姫路城だけじゃない新たな魅力の創出)

- ・姫路城以外におすすめできる場所を聞かれると困る。姫路城以外の観光資源をもっと磨き上げ発信することで、中播磨地域全体でのツーリズムの確立につなげたい。
- ・姫路城の次の目的地に移動する際に、駅に戻りバスを調べて、バスを待っている。MaaSなど新しい技術でもっと快適に中播磨地域を回遊できるようになってほしい。

(テレワーカーの集まる島へ)

- ・家島はインターネット環境があり姫路市にも近くワーケーションに最適。テレワーカーを集めるモデルとなる島にしたい。空き家活用として、二拠点居住の実態を調査しながら、移住希望者とのマッチングも行っている。

(姫路の産業を未来につなぐ)

- ・皮革産業が盛んな播磨の強みを生かす。素材を提供するだけでなく、姫路ブランドを世界に発信して、世界のデザイナーが姫路に集まる仕掛けをしていきたい。

(社会との孤立を生まないつながりのある地域に)

- ・老人クラブは、居場所づくりの1つの大きな役割。社会とのつながりが絶たれると、認知症のリスクが高まると言われる。高齢者の孤立を生まない地域づくりが必要。

(防災意識を高めて地域防災力を強化)

- ・これまでの経験から中播磨地域は災害が少ないと過信している人が多い。地域防災力の強化に向けて、防災に少しでも関心を持ってもらうための工夫が必要。

基本理念：光と水と緑でつなぐ 元気・西播磨

光：人・地域・産業がキラリと輝く / 水：森・川・海が美しく連る / 緑：森林・農地・都市がいきいきと彩られる

ビジョンの方向性

○つながる地域のきずな 西播磨 / ともに支え合う繋がりのあるまち

- ・地域で子育てを応援しよう
- ・次代を担う人材を育てよう
- ・ほどよいおせっかいで縁を結ぼう
- ・あらゆる多様性を尊重しよう

○元気な西播磨 / 強みを活かした賑わいと活力のあるまち

- ・自慢したい地域資源を守り活かそう
- ・戻りたい住みたい地域にしよう
- ・自分らしく活躍できる地域をめざそう
- ・地域と成長する産業を育てよう

○自立の西播磨 / 地域で循環するまち

- ・自然と共生しよう
- ・地産地消を進めよう
- ・遊休資源を知恵と工夫で活かそう
- ・より輝く播磨科学公園都市をつくろう

○安全安心の西播磨 / 誰もが安心していきいきと暮らせるまち

- ・いきいきと暮らせる地域をつくろう
- ・移動に困らない地域をめざそう
- ・健康・福祉が充実した地域をめざそう
- ・防災力を高めよう

<地域の特性・キーワード等>

自然：森・川・海・田園風景の豊かな自然 人柄：温かくおせっかいな人が多い 歴史文化：白旗城や利神城など130を超える山城、城下町など風情あるまち並み、日本遺産（坂越、室津の北前船、赤穂の塩）、ペーロン祭りや義士祭など盛んな伝統行事 産業：皮革・醤油・手延素麺などの地場産業はシェア日本一、北部は県下を代表する林業地域、牡蠣など水産資源も豊富、播磨科学公園都市には先端科学技術施設が集積

<主な県民意見>

(これからの豊かさは自然との共生)

- ・AIやロボットなどスマートファクトリーづくりが進むほど、人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切になる。自然を日常生活に取り入れることがこれからの豊かさ。

(相乗効果で地域を盛り上げたい)

- ・龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一がある。この産業と歴史情緒あるまち並みを掛け合わせれば、さらに地域を盛り上げることができる。

(ご近所同士の支え合い)

- ・西播磨は温かい人が多い土地柄。助け合いの基盤である温かいおせっかい気質を受け継ぎ、地域で支え合って生きていくまちにしていきたい。

(若い人が魅力を感じるまちづくり)

- ・消滅しそうな小規模集落が増えており、土地やコミュニティを維持していくために、残った人が大変な思いをしている。都会に出て行った子どもが帰ってきたくなくなるような魅力ある田舎づくりをしたい。田舎の閉鎖性も変えていかなければならない。

(誰も取り残されない地域)

- ・先進技術も活用し、子育てや教育、医療、交通、災害など生活に不安がなく、地域でいつまでも健康で暮らせる、誰も取り残されない地域を実現したい。

基本理念：世界とつながる但馬～わくわくするまち、あなたと共に～

※ 委員会で検討中のため事務局で仮設定したもの

ビジョンの方向性

- **豊かな自然など但馬らしさの継承と世界の中で輝く新たな魅力の創造**
 - ・ 世界に誇る自然・食・歴史文化など但馬らしい魅力を再発見・認識して次代へ
 - ・ 演劇祭など地域がワクワクする体験 世界の中で輝きを放つ魅力を創造
- **垣根を越えた新たな人との交流・繋がりの実現**
 - ・ 若者・高齢者、移住者や外国人・地域住民、但馬北部・南部などつながりの構築と新たな交流
 - ・ ICTなど新たな技術を活用し海外とも新しいかたちの交流を促進
- **多様性を認め誰もが活躍し夢の実現に向けチャレンジできる地域**
 - ・ 性別や年齢、障害の有無、国籍に関わらず誰もが居場所と役割を持ち多様性を楽しむ
 - ・ 自分の事業やまちづくりにチャレンジし、それをバックアップする仕組みがある
- **次世代を担う若者や子どもたちが生き生き育ち暮らす地域**
 - ・ 次代を担う若者や子どもたちが夢や希望を持って自己実現できる多様な選択肢
 - ・ 地域や社会全体で子育てを支える仕組みづくり 地域や社会で活躍できる教育
- **暮らしやすい生活環境の充実**
 - ・ 教育、医療、福祉、交通・情報通信など快適な暮らしの基盤が充実
 - ・ 地震、豪雨、大雪などの自然災害、感染症などリスクへの万全の備え

<地域の特性・キーワード等>

地域資源：城崎など多くの温泉、山陰海岸ジオパーク、海水浴・スキーに多くの観光客 特産品：世界が認める豊岡鞆、黒毛和牛のルーツ但馬牛、松葉ガニ 環境：コウノトリの野生復帰、コウノトリ育む農法 人：合計特殊出生率県内1位、防災意識県内1位 交通：北近畿豊岡自動車道など広域交流基盤が随時開通、但馬空港の活性化 芸術：豊岡演劇祭 今春開学した芸術文化観光専門職大学 世界的な演劇都市をめざす

<主な県民意見>

(本物を体験し、感動できる但馬の魅力を再認識し世界に発信)

- ・ 但馬は食べ物もロケーションも抜群で、豊かさとは何かをテーマにしていける地域。本物を体験し、感動できる但馬を押し出す。歴史の深い地域であることも知ってもらい、メイドイン但馬を世界に発信すべき。

(多様性と寛容性を大事にするまちとしてアピール)

- ・ どうしても単一の価値観というものはある。男性とは、女性とは、学生とは、親とは、夫婦とはこうあるべきという空気がある。行政や地域が、多様性と寛容性を大切にするまちだということを掲げれば色んな人に響くと思う。

(地方こそ起業の場にふさわしい)

- ・ 地方では若い人がいないと言われるが、新しいことをしようと考えた際に、課題はあるが競合相手がなく、やりたいと思えば事業化できるチャンスがたくさんある。野心のある若者が増えていく地域こそ、30年後に持続可能な地域になっている。

(地域の子どもに但馬の自然を体験してほしい)

- ・ 但馬の自然を享受できないまま過ごしている子どもが多い。都会の子どもの方が自然に興味がある。都会の子達と一緒にあって体験することで自分のことに目が向いていったらよい。

(基本的な社会基盤の確保を)

- ・ どこに住んでも最善の医療が受けられて、家族の負担が少ないということが必要。医療レベルもまちの魅力としては大事な目線。また、ICTの環境整備が必要。5Gなども高速通信網の整備なら比較的早くできるのではないかな。

丹波の森づくり第Ⅱ章「つなごう丹波の森づくり」

基本理念：「人」を創り、「森」を（守り）活かし、「農」をはじめとする生業を興すことで、

ビジョンの方向性

安心して住み続けられる、自立した活力あふれる‘ふるさと丹波’の創生

○空間像「豊かな森（に抱かれた空間）を守り、活かす」

- ・森に憩い暮す（働く）「もりびと」たちのコミュニティ形成
- ・資源エネルギー源としての森の再生－木質バイオマスによる エネ自給率100%
- ・集落をまるごとテーマコミュニティに－住まないで働く（遊ぶ）集落の出現
- ・そこかしこをリノベーションし サードプレイス化－オフィスや創造・交流拠点に
- ・空の移動革命が現実－丹波の空を eVTOL（電動垂直離陸機）が飛び交う

○社会経済像「農の営み、地域の生業を創る」

- ・農（森）を中心とした経済社会エコシステムの形成
- ・MORITEC（森、農、食、コミュニティ×DX）による新しいビジネスの創造
- ・生産・サービス、空間管理の無人化、省力自動化（無人農業、ロボット介護等）
- ・シェアリング・エコノミーによる新しい循環型経済の成立
- ・関係人口を巻き込んだ「仮想コミュニティ」が担い手の源泉に

○人間像「丹波を愛し、丹波を担う人をはぐくむ」「人と人のつながりを育む」

- ・自然と共生する暮らし、農のある暮らし、食の豊かさを享受できる暮らしで自らのライフスタイルを演出（多様な半農半Xの追求）
- ・シビックテックを駆使し、価値創造に挑むイノベーターとしての市民を輩出
- ・多国籍チームによる地域課題の解決－世界の叡智を丹波に結集
- ・100歳超のシニアがAI、ロボットの助けを借りて現場の第一線で活躍

<地域特性・キーワード等>

共生：身近な里山での自然とのふれあい 希少種を含む多種多様な生物 豊穰：盆地特有の気候と肥沃な土壌から生まれる黒大豆、丹波栗、大納言小豆、山の芋など丹波ブランド 伝統：民俗文化が脈々と受継がれる地、日本遺産（デカンショ祭・丹波焼）、創造都市 交流：山陰道・京街道の要衝、半世紀に及ぶ都市農村交流の歴史 地勢・地質：生物が行き交う氷上（水分れ）回廊、篠山層群の恐竜化石 気質：温厚な人々、寛容性に富む風土

<主な県民意見>

（丹波の人はあったかい。だから住む）

- ・自由に人が移動できるようになれば、住む場所を選ぶ基準は「どこ」ではなく「誰と」住むかが重要になる。人の魅力で人を惹きこむ。丹波の人はあったかい。困ったら助けてくれる地域。だから住みたいと思ってもらえる地域になる必要がある。

（地域に関われれば50人に1人は移住）

- ・地域のおっちゃんがかっこいい。農作業だけでなく、土木作業などもばぱっとできる。森の中の暮らしができるようになればと思っている。
- ・神戸大学から50人実習で来る。関わりを持つと毎年1人ぐらいは移り住む人がいる。

（テクノロジーで田舎のデメリットが消滅）

- ・先進地域になれるかが問題。都会よりもいかに先に取り掛かるか。田舎の方がテクノロジーのメリットを享受できる。

（半農半Xで維持される丹波の農業）

- ・丹波杜氏は夏場に農業をして冬場は酒造りをする季節労働。半農半X、兼業農家で生活している。
- ・大阪に家を持っているが、週末丹波に住んで農業をやりたい若者がいる。

（オンラインでは提供できない丹波のものづくり）

- ・コロナでオンラインが広がりつつあるが、リアルでしか提供できないものがある。例えば、丹波産のまつたけは丹波でとれるから意味がある。丹波でしかできないものづくりを考えていく必要がある。

基本理念：人と自然の“環”が広がる淡路島

～ 食いっぱぐれのない豊かな環境の島 ～

ビジョンの方向性

<主な県民意見>

○持続可能な暮らしと環境の島

- ・資源エネルギーを循環 脱炭素社会を実現 企業が立地し地域内経済雇用循環
- ・次世代モビリティでちょうどいい便利な田舎暮らし ワークेशन・リモートワークに最適な島
- ・伝統文化や祭りが身近に 地域でつながりを持ち続ける

○食とエネルギーを生み出す島

- ・ゆるやか農業、雇用就農など多様な就農 農林水産業のスマート化等で食料自給
- ・家庭太陽光・小風力、営農型太陽光発電など誰もがエネルギーの生産者に

○危機や災害から生き残る島

- ・災害が起こっても共助により災害に適應できる島 自給自足で孤立しない島
- ・森・里・海が豊かに保たれ、グリーンインフラを活用した流域治水

○観光客、移住者をあたたかく迎える島

- ・自然・食・歴史文化など独自のポテンシャル 国内外から選ばれる地域に
- ・価値観や多様性への理解と淡路らしいお互い様の精神で移住者を受入

○全ての人が誇りを持てる島

- ・地域資源を活かした独自の学び 個性を活かせる多様な教育を展開
- ・子育て・介護家庭や全ての社会的弱者を地域で支え合える優しさがあふれる島

<地域の特性・キーワード等>

自然環境：都市近郊の島 山と海に囲まれた豊かな自然 美しい海岸線 のどかな田園風景 ため池 歴史文化：日本遺産でもある「国生み神話」「御食国」などストーリーあふれる地域資源 淡路人形浄瑠璃などの伝統芸能 産業：農畜水産業が盛ん（たまねぎ・3年とらふぐ） 線香・淡路瓦などの地場産業 近年は観光リゾート地・ワークेशन・移住の適地に 新たな働き方を求めて都市から企業の移転も 防災：南海トラフ 再生可能エネルギー

(都会にない魅力)

- ・スロークワーク、スローライフなど淡路の特色を生かして発展していく方向性が良い。
- ・都会ではできない体験、例えば、農業や漁業が体験できることが強みになる。
- ・伝承が途切れると島が島でなくなる。神楽の伝承を通じて「和合」の精神を伝える。

(食と癒しの島)

- ・淡路島を一つの小さな国と考えたら、インバウンドで稼ぐしかない国である。
- ・都市にないものを打ち出すべき。淡路の強みは食と癒し。そこを強化するしかない。
- ・淡路と似たサイズのマルタ共和国をモデルに本格的なリゾートの島をめざしたい。

(ポテンシャルを生かした観光)

- ・世界一の吊り橋や渦潮など淡路ならではのものを磨き上げるべき。
- ・魚を目当てに淡路島に人が来て、最終的に淡路島に住む人が増えるといい。
- ・地元農業者と島外の人が繋がるなど、異業種、異分野の交流のポテンシャルがある。

(活性化のボトルネック)

- ・昔からの住民と、新しい人のあつれきを解かないと本当の活性化は難しい。
- ・道路と情報基盤の問題がある。この機会を捉えて投資しないと、人が逃げていく。
- ・淡路に企業立地が少ない原因の一つは明石海峡大橋の交通費。
- ・情報通信網の強化が必要。山間部では未だにネットが繋がらない場所がある。高台で景色が良いが、情報網が整っていない。それでは人は来ない。